



よい子のあゆみ

10月4日（金）に、「よい子のあゆみ」を配布します。

「よい子のあゆみ」は、児童個々の学習指導の成果、学校生活の状況、健康状況等を保護者に連絡し、保護者が児童の学校生活の状況を知るための連絡簿です。特に法的に規定されている表簿ではないため、「通知票」「通信簿」「あゆみ」など、その呼び方も学校によって異なり、形式も内容も学校ごとの創意工夫によって相違が見られます。また、作成、配布を行わない学校もあります。

現在、学校では以下の3つの資質・能力の育成を目指しており、「よい子のあゆみ」にも記載されます

- (1)知識及び技能の習得
何を理解しているか、何ができるか
- (2)思考力、判断力、表現力等の育成
理解していること・できることをどう使うか
- (3)学びに向かう力、人間性等の涵養(主体的に学習に取り組む態度)
どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

これまでの「よい子のあゆみ」で、(1)(2)については、テストや作品、ノート等で評価し、記載することはできましたが、学習指導要領改訂により新たに焦点化された(3)について保護者の皆様にもどのようにお伝えするか検討してきました。

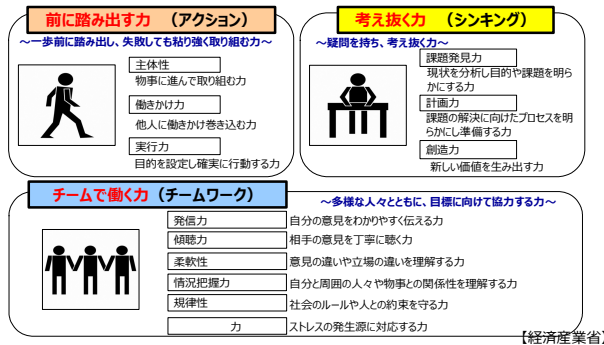
そこで今年度、**授業での振り返り(リフレクション)**を児童自身で行い、**自分の考えや気持ちと向き合うことや、学習内容と向き合うこと**で、**自己の成長への気づきや学びを実感**する取組を行っています。また、その内容を夏休みの個人面談で保護者の皆様と共有し、夏休みという有意義な時間に、児童が自ら主体的に生きていくことを、家庭や地域の皆様と連携しながら進めていきたいと考え、「よい子のあゆみ」を**前期、後期の配布**にしています。テストやよい子のあゆみの数値による評価も大切ですが、これからの社会を生きる力を育成することも併せて考えていきたいと思っています。

今までの「社会人基礎力」とは

経済産業省が主催した有識者会議により、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を「社会人基礎力(=3つの能力・12の能力要素)」として定義。

「人生100年時代の社会人基礎力」とは

「人生100年時代の社会人基礎力」は、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力と定義され、社会人基礎力の3つの能力/12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション(振り返り)しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置付けられる。



上図は、経済産業省のホームページに掲載されています。「人生100年時代の社会人基礎力」は、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力と定義され、社会人基礎力の3つの能力/12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション(振り返り)しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、**自らキャリアを切りひらいていく上で必要**と位置付けられる。学校教育で育む資質・能力を生かしたキャリア教育が必要であると考えています。

また、令和5年度雇用動向調査(厚生労働省、令和6年8月27日)で、転職入職者が**前職を辞めた理由**として、個人的理由(結婚、出産、育児、介護、看護等)を除くと、男性は、「定年、契約期間の終了」「職場の人間関係が好ましくなかった」、女性は、「職場の人間関係が好ましくなかった」「労働時間、休日等の労働条件が悪かった」が上位となっています。

さらに、企業が、採用活動において**どのような人材像を求めているか**を尋ねたところ(帝国データバンク2022年)、「コミュニケーション能力が高い」「意欲的である」が上位となっています。

それらの結果から、**学校で人間関係やコミュニケーション能力、学びに向かう力(意欲)等の育成も努めていきたい**と考えています。

後期も、学校教育目標「自ら学び 互いに思いやり たくましく 未来に羽ばたく 前田の子」を目指し、教育活動を進めていきますので、引き続き保護者や地域の皆様の御支援をよろしくお願ひします。